

カ
ネ
カ
ニ
エ
ル
会
社

カネカは実験カンパニー

KANEKA

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第96期 中間報告書

2019年4月1日 - 2019年9月30日

株式会社 **カネカ**

KANEKA thinks Wellness First

カネカは世界を健康にする



カネカは、環境をあるべき姿にする。

食べ物を健やかにする。

人間や動物を元気にする。

ビジネスに活気を与える。

そして社会を明るくする。

この世界を「健康」にしていくために。

カネカは、ますますカガクにできることを広げ、

様々なソリューションを通じて、

社会と人々の願いをかなえていきます。

トップメッセージ



代表取締役 社長

角倉 護

株主のみなさまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は今年創立70周年を迎えました。1949年の創業以来、人と技術の創造的融合により時代や環境の変化を乗り越えて成長を遂げてまいりました。これもひとえに株主のみなさまをはじめ、関係各位の長年にわたるご支援の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。

それでは、2019年度上半期の業績及び今後の見通しについて、ご説明申し上げます。

1. 上半期の業績について

世界経済は、米中貿易摩擦の激化により、中国のみならず技術的に繋がる世界のサプライチェーンに影響が波及し、また英国EU離脱の混迷や中東における地政学的な緊張感の高まりにより、景気の減速が鮮明になりました。このような状況のなか、カネカグループの上半期の業績は、アジア・欧州での需要の鈍化、自動車産業やエレクトロニクス産業の低迷及び円高影響により、売上高は2,999億円(前年同期比2.0%減)、営業利益は128億円(前年同期比28.9%減)、経常利益は97億円(前年同期比39.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は60億円(前年同期比43.4%減)となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株当たり50円とさせていただきます。

2. 今後の見通しについて

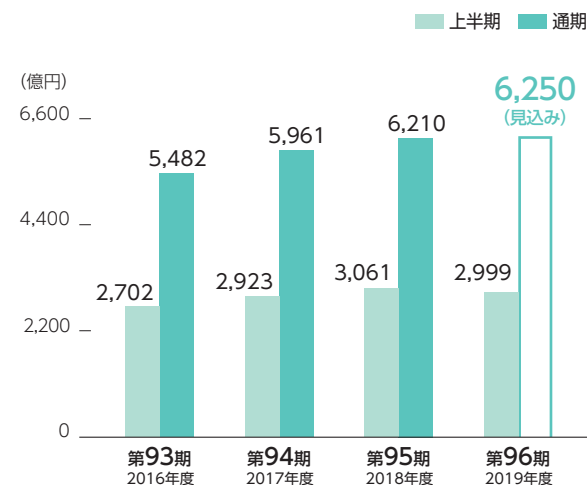
世界経済については、10月にIMFが2019年世界成長率を金融危機以降で最も低い3.0%へ下方修正しました。したがって当面は世界景気減速による厳しい事業環境が続きます。このような状況下、カネカグループでは上半期の減収・減益の主な要因であったMaterial SUやE & I Technology SVは下半期には潮目が変わり原料事情や為替及び海外市場の需要の好転が予想されます。更に、Performance Fibers SV、Health Care SUやNutrition SUも順調に拡大し、下半期は全体として昨年度並みへの回復を見込んでいます。

私たちカネカは化学素材の無限の可能性を引き出し、地球環境問題の解決や人々の健康と活力ある人生、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

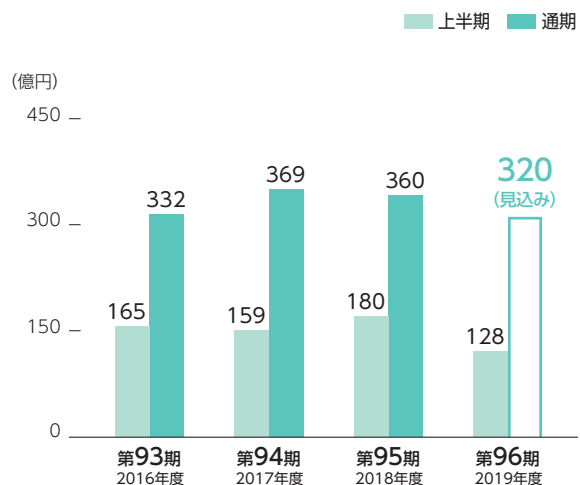
株主のみなさまにおかれましては、尚一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結業績ハイライト

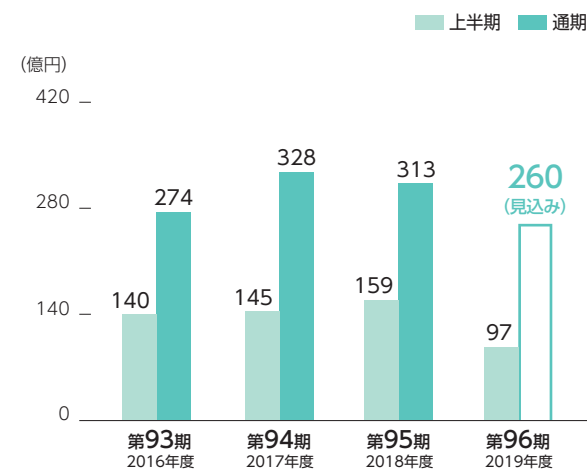
▶売上高



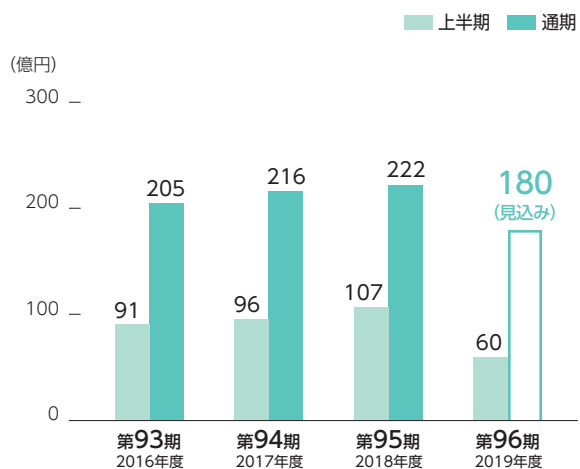
▶営業利益



▶経常利益

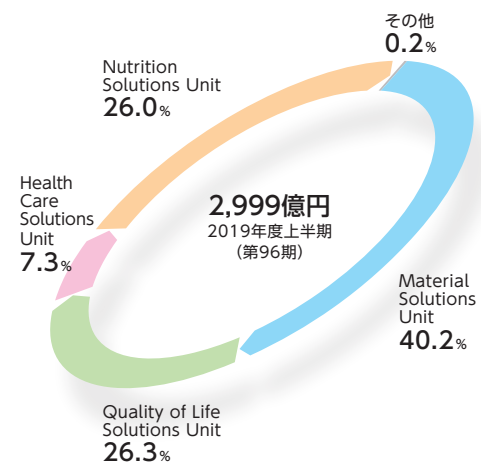


▶親会社株主に帰属する当期純利益

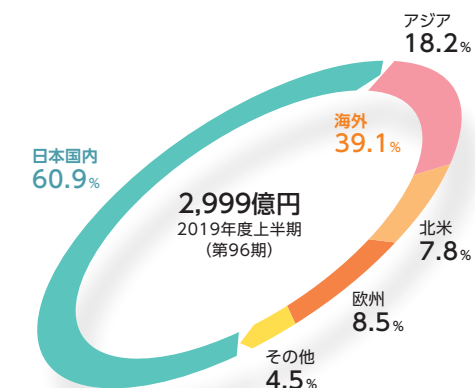


セグメント別概況

▶セグメント別売上高構成比



▶地域別売上高構成比



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

Earthology Chemical Solution

Material Solutions Unit
Material Value Creator
素材の豊かさを引き出し生活と環境の進化を支える

- Vinyls and Chlor-Alkali SV
- Performance Polymers(MOD) SV
- Performance Polymers(MS) SV

Quality of Life Solutions Unit
Quality of Life Pathfinder
素材の力で生活価値の先端をプロデュースする

- Foam & Residential Techs SV
- PV & Energy management SV
- E & I Technology SV
- Performance Fibers SV

※SV:Solutions Vehicle

Active Human Life Solution

Health Care Solutions Unit
Medical Edge Explorer
革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る

- Medical Devices SV
- Pharma & Supplemental Nutrition SV(Pharma)

Nutrition Solutions Unit
Nutrition Value Chain Innovator
食と健康に革新をもたらす

- Pharma & Supplemental Nutrition SV (Supplemental Nutrition)
- Foods & Agris SV

各 Solutions Unit の詳細は次のページをご確認ください。▶

Material Solutions Unit

Material Value Creator
素材の豊かさを引き出し生活と環境の進化を支える

Vinyls and Chlor-Alkaliの塩化ビニル樹脂及び塩ビ系特殊樹脂は、国内の市況は低迷しましたが、インドなど海外の需要は堅調に推移しました。また、か性ソーダは、アジア市況の低迷が続いており、本SV減速の大きな要因となりました。年明け後の市場回復を予想します。

Performance Polymersのモディファイヤーについては、地球規模に用途の底辺が広がっていることから、世界経済の低迷による需要減の影響を強く受けました。このSVの構造改革を進めるドライビングプロジェクトとして期待しているエポキシマスターバッチは、旺盛な需要に対応すべく、2020年7月稼働に向けて能力増強工事を進めています。

変成シリコンポリマーについては、販売が堅調に推移し、昨年12月に稼働したベルギーの能力増強設備が収益に貢献しました。このSVのニューフロンティアであるアジアの市場開拓に取り組んでおり、販売は拡大しています。マレーシアの新系列が利益を押し上げることを期待しています。

カネカ生分解性ポリマー-PHBH®については、G20サミットや10月の安倍首相の「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」挨拶での当社生分解性ポリマーに対する期待表明などマイクロプラスチック問題のソリューションとして大いに注目され、関心がますます高まっています。セブン-イレブンにはじまりコンビニや化粧品メーカーなどでストローやレジ袋、包装材の幅広い用途に採用が進むと同時に、海外の大手ブランドホルダーとのプロジェクトが進展しています。年末には5,000tプラントが稼働し、さらなる需要拡大に向けて今年度中には本格量産プラント建設を決定する見通しです。

当Unitは売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

Quality of Life Solutions Unit

Quality of Life Pathfinder
素材の力で生活価値の先端をプロデュースする

Performance Fibersについては、アフリカは市場拡大が続いております。アメリカなどアフリカ以外の先進国でも高性能頭髮としてのブランド性が高く評価され、新しい需要開拓が進み収益力を牽引しています。下半期も旺盛な需要が更に続くことが予想されることから、新しい需要に応えるべく生産性の向上やデボトルネックによる増産を進めています。

Foam & Residential Techsは、販売価格転嫁を進め収益が大幅に改善しました。事業プラットフォームの強化として取り組んでいる物流の効率化に向けた拠点の整備も収益改善に繋がりました。発泡ポリオレフィン は、短期的には世界的な貿易摩擦による市場の混乱を受け自動車向け販売は減少しましたが、今後の軽量化ニーズの高まりのなか、グローバルな需要拡大を念頭に、能力増強や新プロセス導入による事業基盤強化を進めてまいります。

PV & Energy managementについては、地球温暖化を懸念する社会のうねりの中で当社の高効率太陽電池の技術的評価や、市場の注目度が高まっており、大手ハウスメーカーを中心に販売は順調に伸びております。窓や壁が発電するユニークな太陽電池が住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として注視されており、新製品の増産体制を滞りなく進めて需要拡大に対応してまいります。9月にはセブン-イレブンの再生可能エネルギーによる店舗運営の実証実験へ当社の高効率太陽電池を提供しました。

E & I Technologyの超耐熱ポリイミドフィルムと超高熱伝導グラファイトシートは、スマートフォン市場の減速の影響を強く受けました。社会はデジタルトランスフォーメーションによるパラダイムシフトが進み、その変化のコア素材であり今後拡大が見込まれる有機ELディスプレイや5Gスマートフォン向けポリイミドワニス・新規ピクシオ透明ポリイミドフィルムなど、新しい市場でユニークな新製品の販売を進めていきます。

当Unitの売上高、利益は、ほぼ前年同期並みとなりました。



Health Care Solutions Unit

Medical Edge Explorer
革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る

Medical Devicesについては、高性能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品が販売の拡大を牽引しています。国内市場、海外市場で販売が拡大しました。更に今下半期、国内外で塞栓コイル新製品の発売を予定しております。医療器事業は当社が重点志向している健康分野でのコア事業であり、今後薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテルに加え、資本・業務提携した米国の医療機器会社の血流測定機器など新規医療領域での積極的な事業拡大を目指してまいります。

Pharmaについては、低分子医薬は主要顧客への出荷タイミングが下半期に変更になり、当第2四半期は販売量が減少しましたが、下半期には大きな収益力回復のモメンタムになります。一方、カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売は堅調に拡大しております。生産能力増強工事も完了し、2020年4月の本格稼働に向けて顧客と新製品開発を進めています。当Unitは売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

Nutrition Solutions Unit

Nutrition Value Chain Innovator
食と健康に革新をもたらす

Foods & Agriについては、大手製パン、コンビニや食品メーカーへの積極的な提案型営業が販販をドライブし、収益を伸ばしています。また、食の多様化が進むなか、スパイスのニーズが拡大しておりグループ会社カネカサンスパイス製品の新規採用が拡大しています。インドネシアでは日本の美味しいパン・菓子文化の爆発的な拡大期を迎えており、2020年5月稼働を計画している新工場建設工事を突貫で進めております。乳製品事業では、「パン好きの牛乳」、「パン好きのカフェオレ」また、8月に発売を開始した「ベルギーヨーグルト ピュアナチュラル」は積極的にプロモーションを展開し、好評裏に市場参入を進めています。乳製品の工場建設の検討を急ぎ、酪農家と組んで健康など質の向上や循環型酪農の発展を目指します。

Supplemental Nutritionについては、アメリカでの還元型コエンザイムQ10の販売が堅調に進みました。連結子会社のスペインAB-Biotics社の乳酸菌サプリメント素材は、そのユニーク性が高く評価され、グローバルに販売が拡大しております。アメリカでの生産・販売を充実させ機能性食品のグローバル展開のスピードを上げてまいります。

当Unitの売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



カネカ生分解性ポリマーPHBH® は いよいよ社会貢献ステージへ

6月のG20大阪サミットやG20エネルギー・環境関係閣僚会合で革新的な技術として世界に紹介されたカネカ生分解性ポリマーPHBH®（以下、PHBH®）。「未来をつなぐ」期待素材のPHBH®は「価値をつなぐ」社会貢献素材として活躍していきます。

Material Solutions Unit

G20で革新的な技術として世界に紹介

近年、マイクロプラスチックによる海洋汚染が世界的な社会問題となっており、生態系への影響が懸念されているなか、今年の6月27日～30日にインテックス大阪にてG20大阪サミットが開催され、海洋プラスチックごみ汚染への対策が重要な議題として議論されました。

同サミット国際メディアセンターでは、各国の報道関係者に対して、日本の先端技術や環境問題への取組みが紹介されるなか、当社ブースでは、海洋汚染問題への解決提案素材としてPHBH®製のカタラーリ*1やボトルなど各種成形品や、海水中での生分解性を示すサンプルなどを展示しました。また、PHBH®を使用したコンポスト(堆肥化)可能なごみ袋やカタラーリを実際に会場で使用いただきました。

また、これに先立ち、軽井沢で開催された「G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」にあわせて開催された「G20イノベーション展」にも各種成形品を出展するとともに、本会合関係者にPHBH®製のネームカードケースを提供しました。

さらに、日本政府よりPHBH®は、100%バイオベースで、海水中でも生分解する革新的な技術であると世界に紹介され、今年10月の「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」においても、安倍首相が挨拶で当社のPHBH®に対する強い期待を表明されました。

※1 ナイフ、フォーク、スプーンなどの総称。



カタラーリなどPHBH®製の食器用途の成形品



クリアファイル・ボールペンなどその他用途への展開

「カネカの「絆(つなぐ)」とは

当社は目指す企業像として「もっと、驚く、みらいへ。」を掲げており、そのコンセプトをもとに5つの「絆(つなぐ)」に取り組んでいます。



5つの「絆(つなぐ)」

- ①未来をつなぐ
- ②世界をつなぐ
- ③価値をつなぐ
- ④革新をつなぐ
- ⑤人をつなぐ

カネカ生分解性ポリマーPHBH®製の セブンカフェ用ストローの導入開始

国内では官民挙げたプラスチックごみ対策意識の急速な高まりに応えるべく、容器や包装材料などの実用化に積極的な取組みを進めております。当社は、(株)セブン&アイ・ホールディングスとPHBH®を用いた各種製品の開発を共同で進めており、今年の11月より対象のセブン-イレブン店舗約10,000店において「セブンカフェ」のアイスコーヒー、アイスカフェラテでPHBH®製ストローの使用が開始されました。



セブン-イレブンに導入されたPHBH®製セブンカフェ用ストロー

日・米・欧 3極での展開加速

海外での展開として、PHBH®は、今年1月に欧州委員会「欧州食品接触材料及び製品に関する規則」のポジティブリスト*2に掲載された後、欧州委員会の審査、欧州議会、EU理事会の立法手続きを経て、8月より欧州連合全域で、フルーツ・ベジタブル袋などのドライフード用途に加え、ストローやコップ、カタラーリなど全食品接触用途で使用可能となりました。

日本では、今年5月にポリオレフィン等衛生協議会の食品用器具・容器包装のポジティブリストに掲載されました。また米国では、昨年3月に米国食品医薬品局(FDA)の食品接触物質に登録されています。今後、日本、米国、欧州での事業展開を更に加速させてまいります。

※2 食品接触材料として使用することが許された化合物を列挙した表。



PHBH®を使用したフルーツ・ベジタブル袋

能力増強で社会貢献ステージへ

このような事業展開を進めていくなか、今年の12月に高砂工業所で5,000t/年の生産能力を持つ実証プラント設備が稼働いたします。今回の生産能力増強により、拡大する需要にタイムリーに応える生産体制を整えるとともに、引き続き用途開発も進めてまいります。さらには、次のステップとして生産能力20,000t/年規模の本格商業化プラントの検討を開始しており、本格的な事業拡大を目指します。

PHBH®はこのように「未来をつなぐ」期待素材から、地球規模での環境問題のソリューションに向けた「価値をつなぐ」素材として社会貢献ステージに移行し、持続可能な社会の発展に寄与してまいります。

TOPICS1 Nutrition Solutions Unit

おいさと健康を求めて～乳製品ブランドの拡大～ 「ベルギーヨーグルト™ ピュアナチュラル」、「パン好きシリーズ200mlサイズ」の販売開始

当社は、8月1日よりベルギーの伝統製法を受け継ぐ『ベルギーヨーグルト™ ピュアナチュラル プレーン 砂糖不使用』と『ベルギーヨーグルト™ ピュアナチュラル ブルーベリー』の販売を開始しました。

グループ会社であるカネカ食品株式会社(本社:東京都新宿区、社長:古長 玄一郎)を通じて、ベーカリー、量販店、コンビニエンスストア、一般小売店などで販売します。

『ベルギーヨーグルト™ ピュアナチュラル』は、技術提携先であるベルギー・Pur Natur (ピュアナチュラル)社の伝統製法に基づいた2段階発酵製法により、生乳本来の甘みとほのかな酸味を感じる味わい、独自のなめらかな食感を生み出しました。更に4種類の乳酸菌を配合することで、濃厚でコクのある味わいに仕上げました。



販売開始された「ベルギーヨーグルト™ ピュアナチュラル」

商品の魅力を一人でも多くの方に実感していただくため、ベルギーヨーグルト専門店『PUR NATUR BELGIUM YOGURT CAFE』(ピュアナチュラルベルギーヨーグルトカフェ)を、2019年10月16日から11月7日まで、東京・代官山にて期間限定でオープンしました。ベルギーの伝統料理とヨーグルトを組み合わせたメニューやヨーグルトを使用したデザートは大変ご好評をいただきました。



期間限定でオープンしたベルギーヨーグルト専門店『PUR NATUR BELGIUM YOGURT CAFE』

また、同社では、9月1日より外出先にも持ち運びやすい手軽なサイズの牛乳(商品名:『パン好きの牛乳® 200ml』)とカフェオレ(商品名:『パン好きのカフェオレ® 200ml』)の販売を開始しました。

今後も当社サプリメント素材と組み合わせた機能性食品など順次、市場に投入し、付加価値の高い独自商品の品揃えを充実させ、さらなる乳製品事業の拡大を目指してまいります。



お手軽サイズな「パン好きの牛乳® 200ml」

TOPICS2 Quality of Life Solutions Unit

太陽電池パネルは新たなステージへ (株)セブン-イレブン・ジャパンに高性能太陽電池パネルを提供

当社は、(株)セブン-イレブン・ジャパンが進めている再生エネルギー100%の店舗運営に関する実証実験に、発電効率を高めた太陽電池パネルを提供しました。今般採用された太陽電池パネルは、当社のヘテロ接合技術※1を用いることで良好な発電効率と温度特性※2を持ち、さらに両面受光構造※3により裏面での発電も可能な太陽電池パネルで、店舗の屋根という限られた面積でより高い発電量をとの需要に応える形で採用されたものです。

- ※1 物性の異なる半導体を接合する技術。
- ※2 太陽電池の温度変化に対する発電量の変動の程度を表す特性。
- ※3 太陽光が直接照射されるパネル表面だけでなく、パネル裏面に入る光も活用して発電するもの。

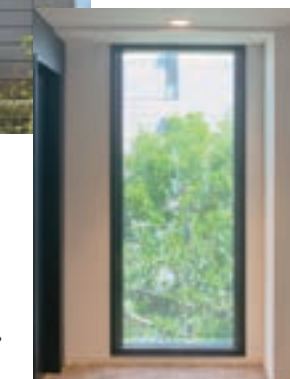


(株)セブン-イレブン・ジャパン店舗実証実験に提供された両面受光型の高性能太陽電池パネル

当社は、パネルの出力向上への取組みだけでなく、建物の壁部に設置できる太陽電池パネルや開口部に設置し光を透過させることができるシースルータイプの太陽電池パネルなどの開発も進めています。ますます多様化する建物における創エネルギー／省エネルギーニーズに対し、適切なソリューション提供を進めてまいります。



開発された壁面用の低反射型カラー太陽電池パネル



光を透過させるシースルータイプ太陽電池パネル

当社は、9月に第7回無担保普通社債として、カネカ生分解性ポリマーPHBH®の製造設備及び研究開発の資金調達を目的とするグリーンボンド(環境債)を発行いたしました。グリーンボンドは、ESG債のひとつで、環境問題の解決に貢献する事業に資金用途を限定した債券であり、事業債として日本の化学会社では初めての発行となります。

当社は、「人と、技術の創造的融合により未来を切り拓く価値を共創し、地球環境とゆたかな暮らしに貢献します。」を企業理念として掲げ、社会的課題の解決と企業としての成長を通じて、新たな価値を創造し、社会の発展に貢献することを目指しています。

2018年にESG経営への進化に取り組むべく「ESG憲章」を策定し、製品の全ライフサイクルにおいて、それぞれの段階でも地球環境保護に取り組み、資源の保全、環境負荷の低減により、社会の持続的発展と豊かな社会の実現を目指しています。また「カネカは世界を健康にする」という考えのもと、「環境・エネルギー」、「健

康」の社会的な3つのクライシスに対し、ソリューションプロバイダーとしてグローバルに価値を提供し続けております。

当社は、グリーンボンド発行のために国際資本市場協会(ICMA)の「グリーンボンド原則(Green Bond Principles)2018」及び環境省の「グリーンボンドガイドライン2017年版」に即したグリーンボンド・フレームワークを策定しました。本グリーンボンドの適格性と透明性の確保及び投資家への訴求力向上のため、第三者評価として、(株)格付投資情報センターから、当フレームワークがグリーンボンド原則2018及びグリーンボンドガイドライン2017年版に適合する旨のセカンドオピニオンを取得しており、また、同社のグリーンボンドアセスメントにおいて、最上位評価である「GA1」予備評価を取得しています。

なお、グリーンボンド原則における対象となる事業区分及びSDGsにおける対象となる開発目標は下表の通りです。

グリーンボンド原則 グリーンプロジェクト・カテゴリー

- ・汚染防止及び管理
(Pollution Prevention and Control)
- ・高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス
(Eco-Efficient and/or Circular Economy Adopted Products, Production Technologies and Processes)

SDGs 開発目標



連結財務諸表

▶ 四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

科目	第96期	第95期	
	2019年9月30日現在	2019年3月31日現在	
資産	流動資産	2,981	3,142
	固定資産	3,453	3,453
	資産合計	6,435	6,596
負債	流動負債	1,951	2,139
	固定負債	911	849
	負債合計	2,863	2,989
純資産	株主資本	3,291	3,272
	その他	281	336
	純資産合計	3,572	3,607
負債純資産合計	6,435	6,596	

Point

- 総資産は、売掛金の減少等により、前期末に比べ161億円減の6,435億円となりました。
- 負債は、買掛金の減少等により、前期末に比べ126億円減の2,863億円となりました。
- 純資産は、為替換算調整勘定の減少等により、前期末に比べ35億円減の3,572億円となりました。

▶ 四半期連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第96期	第95期
	2019年4月1日から 2019年9月30日まで	2018年4月1日から 2018年9月30日まで
売上高	2,999	3,061
営業利益	128	180
経常利益	97	159
税金等調整前四半期純利益	91	151
親会社株主に帰属する四半期純利益	60	107

Point

- 売上高は、前年同期に比べ62億円の減収(前年同期比2.0%減)となりました。
- 営業利益は、前年同期に比べ52億円の減益(前年同期比28.9%減)となりました。
- 経常利益は、前年同期に比べ63億円の減益(前年同期比39.3%減)となりました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ46億円の減益(前年同期比43.4%減)となりました。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第96期	第95期
	2019年4月1日から 2019年9月30日まで	2018年4月1日から 2018年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	162	194
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 209	△ 220
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 33	16
現金及び現金同等物の四半期末残高	318	464

Point

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により162億円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により209億円の支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により33億円の支出となりました。
- この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、318億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

企業データ

(2019年9月30日現在)

▶ 会社の概要

社名 株式会社 **カネカ**
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028
東京都港区赤坂1丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL (03)5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288
(本店) 大阪市北区中之島2丁目3番18号
(中之島フェスティバルタワー)
TEL (06)6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

▶ 役員

代表取締役会長	菅原 公一
代表取締役社長	角倉 護
代表取締役副社長	田中 稔
取締役専務執行役員	亀高 真一郎
取締役専務執行役員	石原 忍
取締役常務執行役員	岩澤 哲
取締役常務執行役員	藤井 一彦
取締役常務執行役員	塗 靖明
取締役常務執行役員	泥 克信
取締役(社外)	井口 武雄
取締役(社外)	毛利 衛
監査役(常勤)	松井 英行
監査役(常勤)	岸根 正実
監査役(社外)	藤原 浩
監査役(社外)	魚住 泰宏

▶ 株式の状況

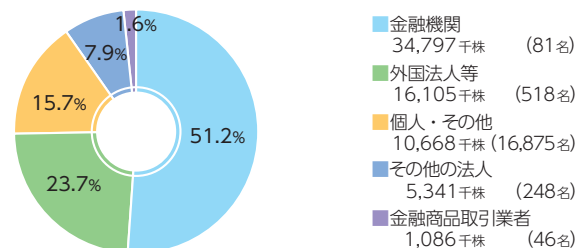
発行可能株式総数 150,000,000株
発行済株式の総数 68,000,000株
株主数 17,768名
1人当たり平均持株数 3,827株

▶ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,010	6.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,212	4.92
日本生命保険相互会社	3,114	4.77
株式会社三井住友銀行	3,091	4.74
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	2,658	4.08
株式会社三菱UFJ銀行	2,308	3.54
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,408	2.16
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	1,327	2.04

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式が2,773千株あります。

▶ 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

株主様向けインフォメーション

▶ WEBサイトのご案内

株主・投資家のみなさまをはじめとするステークホルダーの方々に、より使いやすく、わかりやすく情報をお伝えしています。
今後も内容の充実に取り組むとともに、適時適切な情報開示を行ってまいります。

カネカ

<https://www.kaneka.co.jp/>

▼ トップページ



▶ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告方法	電子公告 https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html	
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777(通話料無料)	

(注) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取り次ぎいたします。

3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

(カバーアート) アーティスト: 曾谷朝絵
・タイトル: Surface
・制作年: 2012年

